

リスク管理

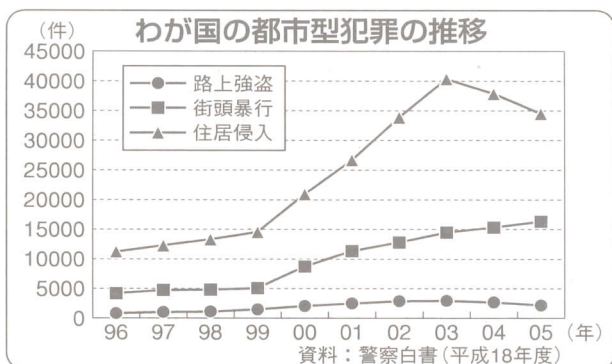
都市は、雇用を提供するが「失業」も生む。また、豊かな出会いの場を提供するが「疎外感」も深まりやすい。都市の中でも、特に匿名性の高い空間では、荒んだ環境や行動が発生しやすい。警察白書によれば、街頭犯罪や侵入犯罪の発生

都市は、人口・経済活動の集積による文化・文明醸成の苗床機能を持つが、一方で、残念ながら古今東西を問わず、多くの犯罪や非行を生む温床機能も保有している。わが国の犯罪状況は、他の欧米先進国と比して、一貫して低い水準にあるが、最近では、路上強盗、強制わいせつなどの犯罪が都市部で急増しており、「女性が夜でも安心して歩ける都市」の神話が崩れてきている。

リスクマネジメント

ABC

都市化で犯罪急増、安全対策は



“割れ窓”のない街づくり

数は10年で倍増傾向にあるが、街頭での暴行や強盗、住居侵入などは3倍以上に増えている(図)。失業や貧困など、犯罪の発生原因は様々考えられるが、最近では、「割れ

窓」と呼ばれる現象が、最近では、「割れ窓理論」と呼ばれる。これは、1969年にジェームズ・Q・ウィリアムズが提唱した理論で、犯罪の発生は、周囲の環境や社会状況によって引き起こされる。例えば、路上強盗や住居侵入などの犯罪は、周囲の環境や社会状況によって引き起こされる。例えば、路上強盗や住居侵入などの犯罪は、周囲の環境や社会状況によって引き起こされる。

の検討と対策が進んでいく。例えば、札幌市では、安全な都市づくりを復活させていく必要がある。

窓理論」に基づく発生プロセス解明と都市づくり対策が講じられて来ている。この理論は、犯罪学者ジョージ・ケリングが、人は匿名状態にある時に情動的・衝動的な行動が現れること、警察官のパトロールにより住民の体感治安が向上すること、など

実際の、90年代半ばのニューヨーク市では、ジュリアーニ市長がケリングを顧問として招聘し、割れ窓理論による治安対策に乗り出した。警察官の街頭パトロール強化、落書きや違法駐車などの軽犯罪の徹底的取り締まり、ボルト・ナット・シロップの締め出しなどにより、殺人や強盗の発生率が半減し、中心街の家賃が50%近く上昇するなどの劇的效果をもたらした。

わが国においても、国土交通省や警察などが中心となって、路上強盗などの都市型犯罪の発生と街や住宅構造、コミュニティのあり方についての検討と対策が進んでいく。例えば、札幌市では、安全な都市づくりを復活させていく必要がある。

匿名性は、地方にない都市の特性の一つである。しかし、わが国では既に古からの知恵により、割れ窓理論を生活規範や社会システムとして導入し、安全な社会づくりを実践してきている。自宅前の清掃活動、世界に誇る交番システムなどである。今後は更に、ITを活用した監視カメラの設置、地域住民による巡回パトロールなどの対策とともに、我々が主体的に清潔感に溢れた清々しい街づくりをすること、世界に誇れる安全で安心な都市づくりを復活させていく必要がある。